



今年(令和8年)4月から 開始予定!

RSウイルス母子免疫ワクチン

予防接種法にもとづく公費(無料)での予防接種

定期接種のお知らせ

どんな予防接種?



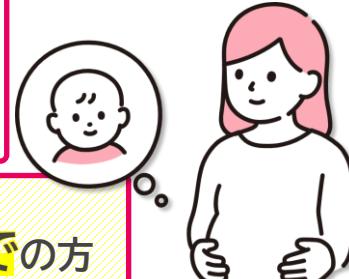
- 生後間もない赤ちゃんや小さなお子さんをRSウイルス感染症から守るために、妊娠中に受ける予防接種(母子免疫ワクチン)です。

▶ 母子免疫ワクチン

- 妊娠中に接種し、母体内で作られた抗体が、胎盤を通じて赤ちゃんに届けられ、生後すぐの時期からしばらくの間、赤ちゃんを感染症から守る仕組みを利用したワクチンのこと。

▶ 対象

- 令和8年4月1日以降、接種を受けるときに、
妊娠 28週から37週に至るまでの方
(36週6日目)



RSウイルス感染症ってどんな病気?



- RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。
- RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6か月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。
- 生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染する、とされています。



- ▶ 潜伏期は2~8日
- ▶ 発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てくることがあります。
- ▶ 初感染の乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。
- ▶ 重篤な合併症として、1歳以下で中耳炎の合併症がよくみられる他、無呼吸発作、急性脳症等があります。



接種方法など詳細が決まり次第、
広島市ホームページに掲載します。
随時、ご確認ください。



「RSウイルス母子免疫ワクチンの定期接種」(ページ番号:1047235)





RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



鼻水



発熱



せき

かぜのような症状が数日続き、多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は、**細気管支炎、肺炎**などを起こします。

生後6ヶ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、あわてずに様子を見て、かかりつけ医にご相談ください。呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関への受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急」などのWebサイトを参照したり、#8000(こども医療電話相談)にご相談ください。



こどもの救急

予防

水と石けんでの手洗い



手やおもちゃなどのアルコール消毒

症状がある時は可能な範囲でマスク着用



こどもを感染症から守るために、家族や周囲のおとなもしっかりと予防しましょう。

生まれてくる子の予防を目的に妊婦に接種するワクチンが薬事承認されています。詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると重症化することがありますので注意してください。

お問合せ先

中保健センター

504-2528

西保健センター

294-6235

安芸保健センター

821-2809

東保健センター

568-7729

安佐南保健センター

831-4942

佐伯保健センター

943-9731

南保健センター

250-4108

安佐北保健センター

819-0586

健康福祉局健康推進課

504-2882